であるを述べたが　其外にも共働が直接に作業の苦痛を減滅せしめることと読かねばならぬ。熟練すれば習慣的無意識に作業することになる結果苦痛の感覚を除去するであらうことも既に述べた。之に类して共働すれば多人数が同一作業に従事する結果、心理上に良い影響を起して、作業に伴ふ苦痛を減少せしめ、時としては作業に興味さへ起さすものである。

　山道を上つてゐるとき、大きな蛇があると気の弱い者は歩行の続行に躊躇するものであるが、多人数で登山してゐる時ならば気が強くなつてゐて蛇の四五疋這ひ出る位は何とも思はぬであらう。重荷を負ふてゐても、多勢で掛け声などしてゐると苦痛が軽い。黙々として攀登するにしても、多勢でやれば互に遅れないようにと努力心が込み上るものである。けれども其中に一人の怠け者があると、吾人の心理を洞察して分担を良く決めないと、其怠け者が多勢の者の努力を鈍らすこともある。其怠け者は一人であれば活動する気力のない者であるが、多勢の中にゐて、精神活動の旺盛な者と一所に仕事をすれば、一人前に活動し得るものである。それゆへ共働作業では傾向ある怠け者は、活動力の旺盛な先駆的人物の手近に配置し、之に反し自律的に働作する者には束縛を加へず、又た怠ける傾向者ほど困難な作業を課し、しかも成るべく終始末に当るような作業を分担さすと、追駆け仕事となつて作業の能率は上り心理的にも肉体的にも渋滞せず、また作業の效果が目に見へて挙るから、苦痛を感ぜず興味さへ湧くものである。誰しも緊張して作業したいが、緊張して多数が作業するには、強制でない追駆仕事の段取となり、適所へ適者が座わり、且つ作業の各区分に適



不足のない人数が配置されねばならぬ。

　関東消費組合聯盟で組合員の為に最初の正月餅を搗いたとき、不馴れで仲々作業が進行せぬ。正月餅であるから猶豫してゐることはできない。[illegible]人近い者が数日連続して徹夜作業をしてゐるが、どうも能率が上らぬ。私が遣方を見ると、大体分担も人数の配置もよいが、どうも緊張が欠けてゐる。徹夜をした疲れでもあらうが、少々人の分担に悪い処があるに気付いた。私も餅搗をしたこともないので、餅搗の段取を決めることに確信がなく、また傍観者である私が段取や担当を変更する訳にもゆかぬ。でそれとなく燃す釜焚を手伝ひ始めた。私は石炭を十分に入れて釜を勢よく沸きらして「せいらう」から湯気が沸き上り、盛に米が蒸せた。そうなると餅搗器械係は勢よく活動しだし、其に続いて餅を延べる者や乾かす為に運んで並べる者も追駆けられ、一同が大活動を初めだし其夜も徹夜したが、前日の二倍以上も能率が上つた。まごまごしてゐるとよけ眠くなり余計なことも考へたりして、労働の苦痛が増すものであるが、追駆けられると余計なことを考へる暇がなく、苦痛を忘れて緊張するものである。苦痛とは体労でなく、より気持のよい意向への抑制であることと思ふ。共働して多人数で勢よく作業するときは苦痛がなくなる理由が判明しよう。一人で黙々と仕事してゐると種々なことを考へ種々な意向を抑制して作業を続けねばならぬので、苦痛を絶へず感ずるものである。

　餅搗の作業分担をするとき、素人考では、釜の火焚は一番楽だから、最も貧弱なものにやらして宜いと思ふであらう。現に聯盟の餅搗では、釜へ

火焚をしてゐた者が最も貧弱であり、
たゞ ら湯が沸らず米が炊けず 従つて
ある 私が石炭を入れもしてから
付き一番最初の仕事わ釜の火焚であり
次へと仕事を追駆けるようになるのであ
によつても了解されるであらう。

(1) 労働と共通性

物質生活に於ける人間的エネルギー
分をなしてゐる。それに次ぐわ動労であ
観念が明瞭で、判断力に富みまた文字
と安心、工夫に立つてわ 敏感であり
た者でなければ其に従事しても何の效
も労働にわ そうした特別の資格や教
と除き万人が略々均一に労働し得るも
封建以前の搾奪経済時代にあつてわ
しんで 農工の労働わ奴隷或わえに類
られを階級わ、学者や宗教家を除き、
としてゐた。此の時代にあつてわ生産
働が神聖であつたのである。
社会の秩序が整頓し、国家の組織が

(2) 労働生活の為に労働することを率
する臣民の作業とされ、人格を認め
役人の仕事も戦争労働を為すも本分
労働わ神聖でなく、役人と作業の等
大さるに従ふて生産労働が神聖



となり出し、逆に殺人や破壊や戦争を罪悪と感じ出した。今日でも国際
間にわ征服の平和わなく、各国わ軍費に莫大の経費を支拂ふてわゐるか
戦争を神聖な理想行為とわ思わず、平和会議を開き、平和条約を結んで、理想と
わ永久平和の実現にある、かく殺人や破壊や戦争を理想の神聖壇上より引
下したものわ、人類の経済生活に関する自覚である 経済生活の深奥にわ
万人に一次的な精神生活が、理想と神聖を確実に保証してゐる
刀や槍や弓矢で殺し合ふてゐた時代わ 戦争を年中行事にしてゐられた
辨慶や清正のように強い者わ、猛虎のような者と戦ふても決して殺される
ことも負傷することもなかつた、塚や砦に立て籠り合へば殺らず相手を殺しも、軍
に集の堅固な城を築いてゐれば、一方に戦ひ他方に酒宴をしてゐられた
殺されたり負傷したりするわ弱虫で 強い者わ必ず勝つも、それも
へ強い支配者に取つて 戦争わ少しも危険でなく 狩猟に出掛けるよりも
倘快な年中行事であつたのである。
けれども経済生活が発達した今日 なぜならば、天才の工夫家が
や軍艦や爆弾や綿火薬や毒瓦斯まで発明したり、統いて大砲
公や無公と差別がなくなつたり、もう辨慶も清正もハ
利にわ数十万噸の軍艦ありなどいつても 兵卒と武器の多少によつて
国の強弱が決定されることになつたり、そうなると戦争わ狩猟でなく、国民
的の大冒険となり、一回の戦役にわ数十億圓の軍費を使ふて、国と国と

戦ひでも双方が国力の全部を挙げて総力戦でも戦ひ、最後まで経済力の持久する方が優勝することとなつた。それゆへ戦争わ戦敗国に取つてわ勿論戦勝国に取つてさへ国民経済の破壊であり又た数十万人の国民と大部の物資とを知て、人道的にも戦争わ最大の不祥事とされ、また戦争に勝つて見たとしも、人民わ奴隷に連れて帰へつた。羅馬がカルタゴと焦土とし、永久平和と草原同様にしたのでわ何の為めにもならへだしたものである。此に於て労働が神聖な建土に等しい生産事業が、人類生活の幸福と開拓する唯一の源泉と承認されたのである。

フィジオクラットの学説わ労働の価値と重い租税の負担を背負わしたが、自然価額の本質と労働に託わたみ、実際の経済価格わ需要供給の取引市場に於て決定されるとし、労働価額へ生産費用の価格であるとしたから、労働の地位わ尚ほ不安と負因に放置され、たとへ労働のみ万人に通じ、利子や地代や利潤も取り得る者わ常に少数である。永久平和と万人の幸福とを対比してみるとき、労働の地位と正当に保障することが、唯に其を神聖とする所以であると発見しよう。

労働わ万人に適するとへ生産労働に従事しない者までも、欲望労働わ避けることができない。乳児や海兵の病人を除けば、貴族や富豪と雖も食事其他の欲望満足の労働を自弁しなければならない。労働を卑しむのわ、重荷欲望を満足する欲望労働と知らないからでもあらう。欲望労働に気付



けば、現に万人わ労働してゐることをも見認せわばならぬ。万人わ労働者であり、又た万人わ労働せわばならぬ。

欲望労働わ実わ二次的である。欲望労働と雖も苦痛、短時間の作業である為に、苦痛が自然に快感を伴ふことわ、病床にあるしき食事するさへ難渋であると見ふて推知し得るであらう。苦痛わ生理を超へた過労の欲望への意向を抑へられる。精神さわ食事する時間さへ惜しまれ或わ全部を忘れるものである。

欲望労働以外の生産労働が二次的であり、苦痛と伴ひ、その苦痛わ時間によつて増減することわ何人も体験してゐる。けれども生産労働が過度でなければ、生理的に血液の循環も善くし、筋肉を発育せしめるものである。

だから、生産労働もしない学生や勤労者等に取り、体育競技などわ必要がなくなる。

そうした時間があれば、読書其他の精神生活の時間を奪ふて、学生の如く体育に結論さわよう。労働青年から精神生活の時間を奪ふて、学生の如く体育競技に参加せしめるのわ、労働者を永久の無智に置くとする陰謀であるとも見られても、恐らく答弁の辞わないであらう。

幸にも労働わ繰返へさわることによつて熟練が進い。わ労働を繰返しても熟練が進いと感であり凝性でもなければならぬのであるから、飽感で執着のない者わ

不熟練労働に従事せねばならぬことになる。不熟練労働でも作業の能率わ緊張しての時間に比例するから、人に後れず、緊張して労働する習慣と養成せねば、社会生活の全体から見て、他人の労働の結果に寄食することとなり、緊張しない不熟練者わ、急性者と同様に掠奪的罪悪に陥されてあらう。社会全体の平均労働時間が短縮されて、人類が文明と幸福に向ふ原因わ、万人が熟練しつゝ緊張して労働することにある。熟練と緊張の習慣が養成されたときわ、作業中わ緊張して十分に時間を有効に使い、人命に落ちず労働の効果を挙げることと、人類的並に社会的責任と感じなければならぬ。口に人類愛を唱へても、人並に労働することと厭い、他人の労働に寄食するわ、愛の反対に掠奪し搾取するものである。

敏感であり凝性である為にわ、自己に適当した作業を撰べば、比較的敏感であり、其に執着して凝性でも、自己に適した作業を撰べば、比較的敏感であり、其に執着して凝性ともなり得るから、熟練の域に達し易いものである。労働の効果わ熟練の域に達すれば万人に均一である。軌師と百姓の労働しわ比較出来わぼど相違するが、熟練の域に達すれば、軌師の八時間労働わ、農夫の八時間労働と等価値に置き得るであらう。しかし未熟練者わ熟練者の幾分の一の作業しか出来ないから、其労働価値もまた熟練者の幾分の一であらわばならぬ。故に熟練しない者わ、他人の労働に寄生してあることになる



熟練と要しない作業わ、業務により労働効果が相違する。種類の異なる作業に付いてわ、労働効果を比較することわできないから、各種作業に付き緊張者を等価値に置き、緊張しない者の労働わと計算して、労働の効果が計られ得るのである。此にいふ労働の効果わ、労働の結果として現われた作業結果であるからである。実際に比較し計算し得るものである。けれども之も直に労働の価格と称することわできない。凡て貨物の価格わ労働時間以外の要素をも雑へてあるものであるから、労働の価額に付いても、別に論ずるであらう。

分業や共力わ労働に付いて十分に其性質が現われる。段取の可否が作業の能率に影響することも、労働に付いて最も顕著に看取される。此等の点わ後篇に於て詳細に論究するであらう。

### (2) 勤労と共通性

勤労わ労働に次いで数量的に重要な人向的エネルギーの能力活動である但、文化が発達すると共に、社会的に労働に対する勤労の割合わ減少する傾があるらしい。欧米文明国の例でわ、労働者二十人乃至三十人に対し、平均一人の勤労者の割合であり、又た官吏や商人の数も少ないが、文明の進歩を我国でわ、労働者五人に対し一人位の勤労者があり、官吏や商人の数も多いのである。それわ労働者が怠慢であつて、多数の監督者と要する為であるわ、或わ反対に勤労者が怠慢であつて、労働者に比し多数の勤労者も要する為であるわ、或わ社会も事業組織とに欠陥がある為であるか、

恐らく此等數種の事情が綜合して、
に勤労者が多数なのである

勤労わ生理的に肉体も労することも
きよりも 隆盛な身なりであられるか
あるが、しかし勤労わ喜びであり、
楽しく、月給生活に入るときわ、も
ても採用されようものならば、非常な
も初めるであろう、又た勤労者わ地位が進み、ベルと鳴らして人と呼び使
ふ地位にもなれば、優越感からの満足と慰じ、單純な娯楽でわ味わあれわ
快感さへ覚へるであらう、しかし断
る多数わ勤労しても機械的の作業に従
わけならわ、

よし勤労が優越地位にあるにしても
優越地位そのものじわ、区別されわ
あらうけれども、其地位にわて、勤労
満足に必要な二次的の手段である、
色も復得することわ、欲望以上の欲望
臣や社長の勤労わ、欲望それ自身で
活そのものでもあるかのように思わ
てせわばならわ個々の勤労わ、果し
比較すれば食わ欲望満足である、

二次的であるように、大臣や社長も
あっても、電話を聞き、或わ電話を
などの個々の勤労わ、大臣や社長とも
又た社会的に、人美生活の目的を達
のである、機械的な用余の勤労が二
明であろう

勤労わ肉体の働作を伴ふことが少ないから、血行とよくし或わ筋肉を発達せしめる効果を持たない、であるから勤労者わ競技などして、そうした欠陥を補わわばならわ、でも勤労もよへれば生理的であって、勤労の為に病気を起すわ、睡眠や運動や休息の不足が伴わなければ、あり得ないことである、しかし勤労が生理的であるといふわ消極的の意味であり、勤労が健康に無害だといふに止まり、適度な労働の如く積極的に健康を増進せしめる効果を伴わわものである、

勤労わ疲労を伴ふことが稀であるから、労働のように苦痛とわ思われないかも知れわが、苦痛わ疲労とわ別物である、私の体験からしても、疲労した上に労働を強いられることわ苦痛であるが、疲労した時の気持わ決して不愉快でわない、山の間野者が疲労して柔い草原に仰臥する時の気持わ、富豪の応接間でソーファに横わるよりも無上の快感を覚へる、一日の作業予定を終へて、入浴などした後の夕方わく、疲労の償快である、苦痛わ疲労でなくても休息が与へられぬ時、始めて苦痛が起るが、そうした無理わ非生理的

であつて、労働作業に避けられわばならぬ。苦痛で労働を苦痛もいふ意味も、非生理的な過労を指すのでわなく普通に労働を苦痛しいふ場合わ精神的により善き意向を妨げられる苦痛しこうしたことであり、動労も亦た苦痛であり、又案を作り、計算し、或わ作業の后始末をする等の動労わ、誘惑的な享楽が待つても思ふしき、楽しくわえになるものである。であるから誘惑をさへ持つ律義な青年わ、労働に対しても、苦痛を覚心ることが少ないのである。

勤労も労働も同じく繰返へさゝれる正確さも迅速の熟練に達するものであるも迅速を、殴取の巧拙も亦た勤労に於ても、局課の区分にわ重大な注意が払われ、勤労に関する分業も共力に行さ、最も適当な殴取が考慮されて、分業を組織する勤労の区分や殴取が悪いも、人数を多く要し、しかも事務が滞滞し、其間に向違など、渋滞するものである。従て勤労に付いても十分に発揮することも注意しなければならぬ。

(3) 工夫と共通性

工夫わ量に於て最も僅少な能力活動であるが、物質生活に必要な程度に於てわ、労働にも勤労にも、絶らない、重う文明の原動力わ工夫であるとさへ考へ得る。



工夫わ事実も精密に調査し、或る目的の為に敏捷に暗示を捉へて、熱心な繰り性の執着でと比て其目的に適した方法を案出することであるから二次的な能力活動であると本質とするも擬り性な人わ、何かしら考案をずにわおられないも思へるが、しかわりなく、そうした工夫の習慣性が得る。猶進し努力したであらう。人慾じ、気楽にしてゐたいのである。けれど工の修養ができず、又た物質生活がなどの習慣が支へられるのである。

工夫わ自然を理解しようとする窮解するとき、整理でわ満足されるが、る欲求からの二次的な利用享生のため用するとき、頭脳の作用わ益々敢慾工夫わ創造しも見へるが、創造よりも発見である。考案の心理を分析すれば、事物の精密な調査によつて、それ〳〵の性質が人類の欲望に如何なる関係あるか、又た人類の欲求する所わ如何なる性質関係のものであるかも明にし、其にわ自然の如何なる事物が適合するかも考慮する噴年であり、学向的知識作用わ、自然関係を発見するに反し、物質生活上の工夫わ、目的あつての生活手段も、自然関係の向に発見せんとする。

工夫の習慣性が発達すれば、食事の間も、歩行の間も、工夫そのものが彼の欲望内容でなくうれないほどであらう。けれども、工夫と、彼わ工夫を享楽するのである。

欲望ある故に、其の手段を発見せんと、工夫を享楽するかにも受取れようが、実に然う者のでなく、彼に欲望を満足する方法の不足みなければ、彼わ決して工夫もないであらう。如何に工夫ずきの人でも、一のエ夫が満足に達成されたとき、非常に気持のよい気楽さを感ずる。気楽こそ普遍の人間性であり、彼わ工夫を享楽もずに工夫の達成を享楽するのである。

工夫わ習慣性となれば、動物と同様に、決して健康に妨げとなるものでないが、工夫の習慣のない者の如く固い頭脳の持主にわ、工夫わ苦悩である。しかし其わ程度の問題であつて、彼にとり過重でないも案わ、生理上に害あるものでなく、むしろ或る程度に頭脳を使ふことわ生理的である。けれども、工夫も本た労働と苦痛といふ程度に於より好ましい動向が抑へられるときに、精神的の抑制を感じて、工夫も苦痛の共通性を持つものである。

工夫わ多くの達成に伴ふ満足によつて、工夫自体わ享楽さへ伴ふものであつて、決あらうけれども、工夫自体わ享楽さへ伴ふ満足によつて、鋭敏と執着を増し、熟すぎてある。しかして工夫も飽満の観を呈する処である。而して大なる研究や発明にわ、多数の動手の共力を要し、調査や、実験や記録等を分担するであらう。又た工夫わ分析し綜合によるものであるから、工夫の心理作用にわ



順序があつて、調査研究の段取を乱すも、五里霧中に彷徨する時の如く、調査も研究も端緒さへ捉へ難きものであるから、工夫も労働や動労の如く段取や共働等に関する共通性を持つものである

## 第五章　物質生活に関係する自然性

### 一、自然と自然性

経済学わ人類社会に於ける物質生活でありて、物質も云ふわ自然も異つて、物質生活といふわ物質に関係しての生活であるから、しかし経済学の定義に於て自然の文字を用ゐず、特に物質生活といふわ、同意義である。自然中の人間を除外する為めである。もし物質生活といわずして自然生活といふときわ、自然の定義が無意味な語辞の羅列となり、経済学の定義が無意味な語辞の羅列となるであらう

物質の文字を物理学的に解釈すれば、人間も本た物質であるけれども、普通観念に於て物といふわ、主体に対立する客体を指し、特に物質と云へば、万物を構成する素質の意味であるけれども、主体の人間も本た肉体わ万物共通の物質より構成されてあるが、人間の内容わ物質のみの存在である外に、人間わ物質以外の精神的要素からも成つてあるとしてあるけれども私の研究でわ、精神的要素も特別な物質であり、決して非物質でないと思ふが、えも他の物質とは較するとき、全く異にしたる素質であるから、物的素質の外に精神的素

負こ区別せねばならぬ、経済学わ、精神的素質及び人類の精神生活を取扱わず、物的素質に関する人類生活を研究するのである

前にも述べた通り肉体わ物質から成つてゐる、其肉体を維持するにわ絶へず物質の新陳代謝が必要である。こゝに人類の物質生活が開始されるのである。

肉体の新陳代謝に必要な物質生活わ単に消費に尽るが、其以外にも形体ある物を使用して、生活欲望の便宜、即ち手段に充ててゐる。消費と使用とわ人類物質生活の二大方面であることわ既に之を述べた通である

概して云へば消費わ素質としての物質を利用し、使用わ形体ある物質を利用することに特長がある。この消費と使用の両生活わ、孰れも物質に関係あるものであるから、経済学わ人類の物質生活と其方式を研究するものと定義し得るのである。

しからば経済学に関係する自然わ、消費及び使用の物質のみであらうか旧式経済学者わ、自然と云へば単に土地を指し、物質わ経済行為の結果とも見て、之を自然より除外し勝である、旧式経済学の主眼わ消費や使用でなく、生産であつたのである。一層端的に云へば、富であり利益であり価値であつたのである。之わ経済学が如何なる動機から発生したかと云ふことを回顧するとよく理解されよう。経済学が生産を主眼とするとき、貨物わ経済行為の結果であり、自然と云へば生産以前の土地などに限られよう。けれども経済学の主眼が消費や使用となれば、限界が広くなり、貨物もまた土地の如く自然の一部となつて来る。



亜米利加大陸の発見わ、旧世界へ大なる衝動を与へた。新世界を発見した西班牙わ、亜米利加大陸の豊富な鉱山より、盛に金銀を採掘輸入し、富強を極めた。仏蘭西や伊太利や英吉利わ之を羨望嫉視した。千六百十三年伊太利のアントニオ・セラわ「鉱山なき国に於て金銀を豊富ならしめる原因を論ず」と云ふ著作をした。之れマーカンチル・システムの先駆ともなるものである。続いて千六百十五年仏蘭西のアントアーヌ・ド・モンクレチアンわ政治経済学と称する著書を公にした。之わ経済学の文字を適当に使用した最初であるとされてゐて、希臘の古代にも経済の言葉わあつたが単に家事経済の意義に使用されてゐたのを、セラやモンクレチアン等によつて略々今日の経済学が取扱ふ題目を指すこととなつた。けれども経済学が一個の科学として成立したのわ、フイジオクラット学派の創始者ケネーに始まり、千七百五十八年彼わ「経済表」なる新著を公にし、彼の門にわ経済学者と自称する一團の学徒が集まつて研究したものである。千七百七十六年にわ有名なアダム・スミスの国富論が出版され、正統派経済学が開始された。しかるに此等の経済学創始者わ何を目的にしたかと云へば、そうわ勿論、ケネーでもアダム・スミスでも国を富ます方法として経済学を提案したのである。従て経済学にわモンクレチアンも冠した如く、ポリチク即ち政治の形容詞を附加することもある。斯様に経済学を富国の手段として研究するとき、金銀其他の貨物の生産が主題となつて、消費や使用わ寧

ろ富国の根源とも解され、消費を節約して貯蓄することが正統派経済学説
ても重要視され、近古の経済学者も其影響を受けて、経済学の主眼わ消費
も使用であるを知らず、従ばかり消費を論ずることもあ
っても、使用にまつしわ様態さへもられてゐない現状である。
我等も経済学に生産の重要なことわ記める。けれども生産わ消費と使用
の為であり、消費に対してわ生産的貨物を、使用に対してわ形体ある貨
物を、人類生活の為に供給するが為に、生産事業が行われる訳でわな
い事実を記憶するのである。
消費も使用の物質生活の為にわ、貨物の生産を必要とする。貨物も生産す
るにわ、土地や動力や原料や、又太陽エネルギー等を利用しなければな
らぬ。生産された貨物、事に生産に利用される此等の外界わ、人類の物質
生活を構成する物的要素であつて、経済学と称して自然しいふ中にわ、消費
と使用の物体の外に、生産に必要な土地や動力や原料や、太陽エネルギー迄
一切の外界をたく観察しなければならぬ。かように広く観察するとき、自
然を概括して分類すれば、もの如くに大別せわばならぬのである。

物 ┬ 自然力
　 └ 労働

物しもふわ自然界と人間しも一切をふくむ。力しいふもエネルギーしい
ふに同じく、物に当つて貨物と活動さす、労働わ人間の空間的或わ時間的相互関係である
物や力わ物理的にも数学的にも一切の物や力わ次第々々に
貨ふあつて、其或者わ化学の対象から試験される。物や力に依つて
学の対象ならざる、物や力に依つて
ならしめる。労働しも同様
宇や地理学の研究しなり、広史
時の者その性質わ天
物や力の性質を調査する
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ



活動さす。佐運しいふわ、物及び人の空間的或わ時間的相互関係である
物や力わ物理的にも数学的にも一切の物や力わ次第々々に
貨ふあつて、其或者わ化学の対象から試験される。物や力に依つて
学の対象ならざる、物や力に依つて
ならしめる。労働しも同様
宇や地理学の研究しなり、広史
時の者その性質わ天
物や力の性質を調査する
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ
物を同様にわ
まだ不質わ理解されるもの
ものわ物理学や地理学の重大問題で
ず、物や力の性質に、部説し
物や力の性質を同様にわ

## 二　物の種類

物は自然界を区劃した一部分である。
[illegible]
[illegible]
[illegible]

無限物と有限物とにも大別し得られる。此等の觀察は　やがて経済学上の貨物を理解する主要となるものである。

学問は多くは定義に開始される。定義は物の性質を示すものであり　物は性質を離れて理解し　或は説明することができない。学者は往々単純な此事実を看過し　専門語の定義に勝手な解釈を下して　甲論乙駁して居ること　しばしば是は吾書の読者と講究の学徒に取って　有りもしない迷惑な時間と労力を空費させる。学問は多く囲始され　多くは物の性質に基き　物を説明するのは　其性質を指示するより外に方法がないことを了解すれば　観念的に貨物に関する学説を弄する旧弊を脱して　事実に立脚する活気ある学問の新局面を開き得るであろう。少なくとも在来の経済学には　断じて誤謬が充満してゐる。

貨物は労作物であって天然物でない。天然有限物であって無限物でない。労作物には採集物と保護物と製造物がある。採集物というは　堀出された鉱物や石炭の類　或は釣上げられた魚介や海草の類である。保護物と云ふは土地を利用して耕作或は飼育の保護を加へ　収穫された農産物並に増殖された畜産物の類である。製造物とは工場に於て変形し加工された化学的並に機械的の工作品である。貨物と云ふは此等の労作物に限られ天然物に及ばない

天然物と云ふは人間能力の活動を加へて所持されない木や空気の如きものを指称することは前述の通りであり　此等天然物としても　人類にとり非常



に必要ではあるが　人間能力の活動によって所持せずとも　天然に存して然も備った状態から直に欲望満足に充用し得られるものである。即ち我等は空中にあって呼吸し　到る処に水が湧いて之を飲むことが出来る。呼吸や飲むことは労働であるけれども　其労働は欲望労働にあり　労作して所持をする生産労働ではないのである。井戸を掘って水の湧出を助けることはあるが　それは土地に加へた労働であり　土地を開墾して田畑を作るとは等しいものであって　井戸を掘る労働と　水を所持する労作とを考へることはできぬ

天然物の中には欲望の満足に充用し得ないものもある。例へば地下の鉱物　或は海中の魚介は　採集されてあらねば　欲望満足に充用し得ないので　貨物というは此等の利用し得る天然物を　利用し得る天然物から作く状て労作物といふは　大よそ所持物と一致するが　しかも所持物の中には土地を包摂してゐる。貨物というは　所持物から土地を除外したものであり　之が即ち労作物の範囲なのである

存在の理由から云へば　貨物は人間の能力活動によって労作されたものであるが　自然界に存在する数量から云へば　貨物は有限物であって　無限物を除外してある。但　有限と云い無限と云ふは　実在的の数量でなくて経済生活の世界に存在する数量を指していふのである。換言すれば　人間が物質欲望を満足するに充用し得る可能な状態に於て存在する数量に付ていふのである。

此意味に於て無限物といふは　空気や水や太陽の光で

あるが、特別の時と場所でわ、空気も水も土砂も叙之も時所的に或わ場所的に有限物となることがある。例へば潜水夫に取りてわ、空気わ貨物と成り、金山吉に取りてわ、水わ又た貨物と成り、都会の建築工事をする者わ土砂が貨物となる夷である。従て無限物と有限物の区別わ絶対的に物を二分けするのでなく、時と場所とにより同一種類の物を有限物とし或わ無限物ともするのである。

三、実のひきわ湊付でわ雑草など無限物の取扱を受ける位である。八千代わ男吉にとり無限物以上の敵物であるが、学者の研究室でわ、貴重な資料ともなろう。壷茶わ都会生活者にとり無限物と同様に見做されてある事件てわ必ずしもそうでない。斯くの如く無限物と有限物との区別わ時と所とによって物その物に付き截然と分けることわできないが、しかし時として空気わ実わ貨物の持つ所である。具体的に或る物に付いて云へば其物わ或る場合にわ貨物となり、或る場合にわ貨物以外の天然物と見れば至らわそして如何なる場合に貨物と云ひ、如何なる場合に天然物と見るかを問ければ、労作の加わつたと否とを標準とするが、其でわ余りに機械的であつて、何故に労作を加へるかの理由を不問にすると、場足乗わ水や空気へも労作を加へることわできるから、必要の如何に拘わらず労作を加へて一切のものを貨物と云ふこともできるかも反問しよう、其を論ず説明わ、無限物と有限物との相対関係である。即ち貨物わ有限物であつて、無限物わ貨物と云わないことである

空気が無限物で労作物を作出すのわ決して無意味の道楽でなく資料が有限であるから、己を得ず欲望満足の前提として之を労作するのである。手段を要せず欲望を満足に適する状態に於て、無盡蔵に天然に存在する物があると、特に之を無限物と名けるのである。従て無限物自然わ天然物の一種であつて、天然物中の利用し得る物に当る。欲望満足の為に用される天然の物わ、貨物であり労作物であるが、しかし両者の物わ貨物であり労作物もあるといふもいけてわ、機械的であつて、真の意義を知り得ない。器械機械の此の点を解決するものわ、貨物わ有限物のことなりと言へるしき。説明されるであらう。

有限物を細分して普通品と稀少品とする。普通品とは、労作すれば欲望満足に十分な分量を、社會生活者は往々に持ち出し得る種類の貨物を云ひ、穀物や、果実や、砂糖や織物の類である。稀少品といわ、労作してでも人間一般の欲望を満足するに足るだけの数量を、社会生活者へ持ち出し得ない種類の貨物を名ける。宝石や化石や骨董品の美術品、作や戦場附近などでわ、相対的に穀物其他の日用品が稀少となることともある

以上の分類を以て貨物の範囲も性質わ判明したと思ふ。貨物とわ土地を除外した所持物であり、天産物でない所の労作物であり、無限物でない所の有限物である。定義の形に於て之を云へは、天産物として無限に存在しないゆへ、人間が直接欲望の満足又わ生産作業に応用の為め、労作した所

持する物が貨物なのである。この貨物であるから経済学も貨物に関する云ふわけである。

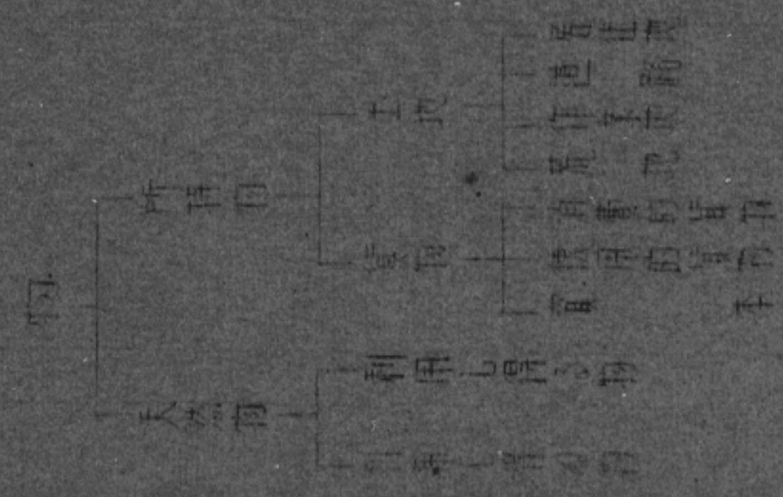
貨物は消費的貨物と使用的貨物とに区分することができる。消費的貨物は消費欲望の対象となるもので、其欲望を満足せしめるものを指し、使用的貨物はいわゆる使用欲望の対象となるもので、貨物としての特性に変化を生じ、消費欲望に対当し、使用的貨物は使用欲望に対当するものである。

貨物より消費的のもの及使用的のものに区別されるけれども、これだけでは抽象的であつて、資本の意味を指示すことに足りない。資本は所持物であつて、之を細別すれば労作する能力活動と設備し貨幣となる。

物を労作する能力活動を普通に工産と称する。実は土地水最も重要であり、所持物も云ひ得るのである。

生産に充用されるものは所持物に限らず、生産の全体を資本と云ふこともあるが、それでは観念を混雑せしめるから、資本の意味を生産に充用される所持物に限定する。実際や資本勤定と一層狭く制限し

貨幣のみを資本と云ふ。土地も別勘定とし以て整理するほうがよい。



有限物であり、水さへも高い水道料を取られるのである。村落でさへ人口増加の影響を受けて、肥料や飼糧とする草を売買する程にさへなってゐる。水はまだ村落では價額を持ってゐないが、それでも人数が多くなると不自由を感じだす。人数の少ない間は、山に住む者は如何な山上にあっても自用の水に不足しないが、人数が多くなると、遠方の谷間より水を引くなしには労作をもなければならなくなる。奥山で炭焼く人等は、都会人よりも想像さへ出来ないであらうけれども、藤蔓などの根から炊事や洗面の用水を取り得る。窮すれば通ずで、山中に生活する人々は、広大な自然から何物かを探し得るのである。が、人口が増加すると、さうはいかず、開墾や飼育の労作を加へて狭い面積から多量な食物を生産することをしなければ生存できなくなる。

人口の増加を主因として、無限物が有限物に變わることも、物その物がヘーゲルの弁証法にでも從って変質するのだと思ってはならぬ。物の物理性は人口の増加に無関係であるが、人間との関係に於て、人間が意識する物の社会的性質は、人口が増加するに従って無限から有限へと変化するものである。文明の進歩に伴ふて穀物等の價額が往々にして騰貴する事の理由は、此にあるのである。

第四　貨物は形態を重要とし、其形態は労作によって与へられる。

物には質があると同時に形態がある。質と云ふは組織を意味し、物理学や化学等の自然科学の対象とする性質である。此性質が貨物としての重要なものであることも疑がない。けれども如何なる場合に於ても、貨物は質以外に形態を、より一層重要としてゐる。特に使用的貨物や、生産に充用される機具や設備は、形態を離れると、貨物として考へ得ないほどである。消費的貨物や生産材料でさへ、質も重要であるが、形態が整はねば貨物となり得ないのである。

労作されず自然のままで、消費や使用や生産に充用される物もないではないが、さうした注文通りの天然物は稀であるから、其を発見して週はるのは却って形態を作出するよりも多大な労作である。であるから貨物としての形態は、稀に天然に存在するにしても普通は労作によって整へられる。もし天然の儘で適当な形態を持つものとしても、其を探して廻る労作を要し、さ貨物の形態は皆て労作の結果であると云はなければならぬ。例へば種子の如きは、耕作物を刈取って脱穀し調製せねば、自然に種子となって落ちるし、待ち拾ふ果實でも食ひようもあるが、さうすると却って脱穀し調製するよりも労作を要するであらう。作物は刈取って脱穀し調製し、食用にも充てるばかりでなく、又種子とする部分を撰別もするのである。

又た消費貨物にも形態が必要なことを例示しよう。米は精白され、麦は製粉され、魚は調理される。野蛮人は別として、文化の社会生活では、天然の儘の形態で物を消費することは稀であり、水さへ容器に入れて飲み易い形態に準備する。果物は木より捥ぎ取り皮を脱いで裁断する。西洋人は果物を生食せず、多くは果子に焼いて食用に供する。強いて天然の形態で欲

労働も、貨物の本質と無関係となろう。従て貨物の分配等に関する労作は、マルクスも云ふように工業的であらうか。

労働は生産労働と、欲望労働に分けられる。此区別は労働にとまらず勤労にも工夫にも一切の能力に共通する。従て貨物に対する行為の活動は生産の為と欲望満足の為との二種に観察される。此区別は現実の問題としては何時までを生産と見るかに依つて、生産労作と欲望労作の境界を決めねばならぬ。此時期が貨物としての性質に関係するのであらう。之を貨物としての時期は、其価額を決定するには、是非決めて置かねばならぬ要領である。

問題に関係する範囲が複雑になると、定義の字句に拘泥して、説を宿に触来すことは避けなければならぬ。定義は概念の指示であり、他の概念と区別する程度に於て、単に重要なる一部の性質を例物として指示し、常に不精確を免かれぬ。

貨物には形態の外に位置が必要である。如何なる位置に置かれたとき貨物と云い得るか。天然物が貨物となる時期は、之によつて確定されるのである。凡て物の位置は刻々に変わる。地下に於ける石炭の断層は、坑夫によつて砕かれ、軌道によつて坑外へ運ばれ、工場内の選別室へ入れられる。貨車に積まれて疾走し、都会の貯炭場へ積まれる。袋や函に入れて馬車や自動車で消費者の物置へ運び込まれ、再び物置から発き出されて最后にストーブで燃される。これが石炭と云ふ貨物の一番長い生涯である。



では其生涯の何時から、彼は貨物となるであらうか。坑夫によつて砕かれても、坑内にある間は未だ貨物ではない。坑外に運ばれて選別室に入れられ、岩石の破片なども除かれたとき、始て石炭の資格を与へるから、選別室へ見ようとしても、選別が終はる迄は石炭の貨物性は開始されないのである。若し途中坑内で選別すれば、さきに坑外へ運び出した時から石炭は貨物となるであらう。斯く選別と運搬によつて石炭の貨物性が開始されるとすれば、其出前の状態は天然物から貨物へと変化して行く過渡期であり、従て坑内に砕かれて岩石混りに放置された石炭は天然物でもなく、又貨物でもなく、譬へば動物と植物の境界線にあるアミーバの如き状態のものである。

自然界には限界がなく、宇宙とあらゆるものは境界線上の中間物である。選別されなくとも、石炭は貨物となり得るとしても、それが人へ届くまでは必らず坑外へ運ばれて位置を移すことが必要である。貨物には形態も重要であるが、又位置も必要性質の一つなのである。そして其位置が変化するにつれて従ふて、貨物の性質は益々濃厚となり、遂には人間の欲望を満足して、石炭はストーブで燃される。

貨物の位置は刻々に移る。其時間毎に貨物の性質は濃度を増す。其に従ふて貨物の価額も増加して行く。市場とは其途中に於ける貨物の位置であり、貨物は普通市場に於て交換される。けれども其は貨物の要素でなく、貨物の要素としては、兎も角も位置が労作によつて変更されることだけを

よる、 結合わ宇宙区分の単位にわ程遠かろう
共通性質も遠い 個体も意味することもある 個体といふわ 社会に付き
一
その作業なのである。
カントわ四十七宗のもち大原理を発見し得たと自覚した 彼わ其
それもコペルニクスやニュートンの天文学上に於ける天発見にも劣ら
ぬ発見もコペルニクス的原理と名けたも 彼の発見もわ、「我等を客観的と
認めも命題の多くわ 事実主観的であろう。」といふこともけだあった 個体
主義並や唯物史観なども 客観的原理へ押上げ 我わ押上げられも事実
誤認して 如何に多くの社会科学も自称する一派がマルクス狂青年を
幸福しつあることよ 私わ思想体系に於てカントも否認するが 彼のコペ
ルニクス的発見わ確に正当な着想であり 観念や論理の優越と客観的原理
を誤認する者に取り よき頼服薬である と思ふ。
宇宙わ抽象なしに存立しない けれども其理由わ 符合によつて宇宙区
分も信確に把握することが学向の前提となるからである。形態や組織から
宇宙を区分する主観作業わ、 具体的であり、 之を抽象し見る訳にやあ
宇宙の一部を区分して山と名け川と呼ぶわ、 決して抽象的の山や川を観え
るのでわなく 具体的の山や川を指示するのである。 こゝにも宇宙区分
にわ、 それぐの固有名詞が与へられる。 けれども我等の主観作用わ こ
をした具体的宇宙区分だけに止まらず 夫々の固有名詞が与へられる山々
に付き 其共通性を認識しだす。 此認識を本も主観的であるが 山々に

宇宙的の共通性質があることも発見するのである。 共通性質こそ抽象作用
の起因なのである。
共通性質わ形態にも存在しよう。 組織にも存在しよう。 事物間における
関係にも存在しよう。 大ない共通性質も発見されも所わ 形態と組織と事
物の相互関係との三箇所に於てである。
共通性質が発見されるに従ふて綜合わ具体的宇宙区
分か 全体を部分に区劃して観察するのである
ようも観察するものである
事件から部分も区分することも 抽象作用の所産と誤認してわなら
ない 部分も区分する主観作業も 宇宙現象の変化に一定してゐる
富士山わ繰返し視野に現われる如く 抽象作用による宇宙全体の意義よ
特に富士山しいふ具体的部分と宇宙全体との関係 中に記憶する主観作用であり
私の上のインキも他の感覚内容から分離して 同理のインキ
を観察し インキの共通性も発見しても 私の上に毎日インキが置かれ
ないでも 私の上のインキ瓶わ手を持つことも 私わ一定の形態を失わ等の
物事しても 宇宙視野における定義の目的事物 あるいわ本の如く
のないインキと区分するに至つたなら 一瞬の
それを見てインキと教へるも 観念を持つ 実相
もつかへなくも指示しつゝ

## 力の種類

力の本質が不明であると同時に
説もしくは電子説あり量子説が
ともかく実在し　物

元始の社会や　高国の方法や
に於ける貨物はかりを対象とし
けれども実際の物質生活に於ける方
物質もこれに限定されるもも
かの一部であり物の固有性質と
物とから結合に於て区別し得るの
固する字宙である如く　物質生活も
のであり経済学も定義する物
てゐるのである。
今両者自身が何であると同時に
義として自身の新陳代謝を完了する
所なわち即ちかであるからである
物質生活　経済学者や貨物を論じ

ゐるを了解されたい。
ワルムスス等の正統派経済学説
り決定されるとするから、交換以前
交換の時に始めて発生するものなら
観的存在性を失ふことになる。
出されたものであるから貨物の価
計量され得ることも勿論不能
欲望の強度わ主観的であつて評
的に評価し得る処に　価額の計算可
へに価額わ交換の際に突然と発生す
しても貨物の共通性として貨物の存
され得る処のものであるも観察しな
貨物に関するおよその語位置わ清
又た各種の資本にしても共通
も其大部分の性質し具有してゐる
り、生産に充用されるしさ地味を減
用に耐へ又た絶対に位置を変更し得
の存在に労作を加へて　欲望満足
価額を与するにもや　天然
細論するも過ぎ

五　力の性質

力の性質わ天然力も所持力に付き大差がある。所持力でも変力が外力より観察されるから此処に比較して天然力の性質を述べる。

一　所持電力にわ直接欲望と満足との関係がある。

天然力にわ此関係も変化もない。

## 六　位置と関係

人口住宅に於ける密度問題は外に距離の
遠近に関する諸点が深くあるが、従つて
それ
は有効に距離関係の中心なる市場と各
消費者との完全なる連絡が必要であり、又
敏速に出入荷物の集散が必要であり、又
それに伴う交通路の発達が必要である。
市場からの遠近問題が起りその市場
中心一箇所でなく同一都市内部や郊外に
散在する場合には、市場に関する最も
しやすき所、或は各地へ分散するに
便利なる問題もあるが、此点も同様
に於てそうであるが、其他の荷物
の荷造、積卸、運送や交通の簡
単に関する重要問題を含み
埠頭や荷揚所に関しても
ある。
住宅に関する問題の重要さや、
賃金生活者の住宅を観察しても
第一、天然住宅の人為的に変更することも亦困難である。

かわ山を抜き気わ世を蓋うも苟
弱であつて、山へ
より、造営の爆発物が発明され
変更する大事業も我々の
位置であるも
少数の大事業であり、
等々に不可能であらう。
宇宙に多い都市と言葉もこの
ものわれ自然の
人間の住宅さえ
論文より都市の住宅さえ
ものもあるもの
ような在天の都市を建設して
衛生、
物の
理わ想像し難くないのである
爆発物等が自然力によつて修
配わ絶対にないと思われる。
迄けるであろうも同時に
市街にも
行にあらわはならぬ。今日の天然